



第82巻 第2号  
 年4回発行  
 社会福祉法人 慈生会  
 〒165-0022  
 東京都中野区江古田3-15-2  
 TEL 03-3387-5567  
<http://www.jiseikai.jp>  
 振替口座 ベタニアの家  
 00170-6-15317

## フロジャク神父の歩みを わかりやすく伝えたい

櫻井 正昭

「戦争を知らない子供たち」という歌が、戦後二五年目の一九七〇年に開催された大阪万博で発表されました。戦争を体験している世代からは、歌詞の内容が甘いと批判されながらも、ベトナム戦争の反戦歌として若者の間に広がりました。それから半世紀を経た昨年二月、ロシアによるウクライナへの侵略が始まり、現在もお続いていますが、反戦とか和平を呼びかける声が当時に比べて大きくないように感じます。

私は戦後日本の公害が激甚だった一九六〇年代の半ばに、厚生省に採用され、七一年に総合的な公害対策を実施するために新設された環境庁に異動しました。当時は「水俣病」、「新潟水俣病」、「四日市ぜんそく」、「イタイイタイ病」のいわゆる四大公害病が社会的大問題になっていました。その中で私は個人的に、熊本の水俣病の患者さんたちの悲痛な叫

びに心を動かされ、原因物質の有機水銀の発生源だったチソソ株式会社株主総会への一株運動に参加したり、東京本社前の座り込み抗議行動支援のカンパで街頭に立ったりしました。大気汚染や水質汚濁についての厳しい規制が講じられた結果、状況は急速に改善され、一九九五年に退官して私が三〇年間の公務員生活を終える頃には、地球温暖化問題の方に焦点が移り始めていました。

その後公害問題について講義するため、大学に非常勤の講師として呼ばれて、過去の知識や活動経験を踏まえて懸命に水俣病の悲惨さを語りかけても、聴講している学生の顔を見ると、実感としてわからないのか、カラ回りするばかりでした。既に大気汚染も水質汚濁も社会の重大事案ではなくなっていたからです。

同じようなもどかしさは、毎年慈生会の新入職員へのオリエンテーションで、私が「フロジャク神父の生涯」を話している時にも感じるがあります。神父は我が国の結核患者が

置かれていた窮状を目の当たりにして、その救済のために奔走されましたが、そのきっかけは療養所から機械的に強制退院させられて、行き場のない患者を受け入れるため、一九三〇年に「ベタニアの家」を建設されたことでした。また一九四五五年の終戦直後には、浮浪者や引揚者の支援のために尽力されました。まさに日本にまだ社会福祉の概念が定着していない時代から、その道を開いて来られたのです。このような功労者でありながら、その足跡を詳しく紹介しているものは、神父の没後五年目に出された四〇〇余頁の五十嵐茂雄氏の著書において他には無く、既に絶版になっています。

神父の活動を理解してもらうためには、結核が恐ろしい伝染病で、社会から強権的に隔離させられていたということを知ることが必要があります。しかしながら現在は医療や治療薬が進歩して、患者は少数になっていきますので、往時の結核や、より一層深刻だったハンセン病の患者さんの過酷な運命については、言葉だけでは伝えられません。

私は実母を結核で亡くしていますので、身近な問題として自覚できますが、現在の若者に理解を求めることは至難の技です。神父が初めて結核患者の見舞いに訪れた、旧東京市立中野療養所の跡地は、国立病院、

国家公務員宿舎などの紆余曲折を経て、民間に払い下げられ、現在は「江古田の森」という公園と、近代的なマンション群となっています。また神父がその近傍に療養農園「ベトレム」を開設した、旧東京府立清瀬病院についても、現在は跡地に石碑が建てられているだけで、清瀬市の中央公園と国立看護大学校などになっていますので、当時の雰囲気は残っていません。

二〇一九年末に中国武漢に端を発した新型コロナウイルス騒動は、空気感染で広がること、治療薬がないこと、死に至るケースがあることから、かつての結核の恐怖に匹敵すると思われ、新型コロナウイルスを例にすればわかりやすいかなと思いましたが、その後の経緯を見ると、これまでの季節性インフルエンザと同等程度になりつつあります。

これと言って名案が浮かばない私にとって、最近嬉しい知らせが届きました。オリエンス宗教研究所が子ども向けに発行している週刊「こじか」で、この四月から月一回のペースで、フロジャク神父の生き方を紹介する漫画の連載が始まることになったということです。

神父の歩みをわかりやすく伝えるための新しいツールができることになり、大いに期待しています。

(慈生会常務理事)

二十歳を祝う会

金子 祐子

ベトレヘム学園では「新成人を祝う会」として、職員、在園児童、来賓者を招いて、新成人となる卒園生のお祝いをしています。民法改正により、令和四年四月一日からは十八歳で成人となったため、この会の名称も変更が必要となり、今年からは世間にならって「二十歳を祝う会」と改めました。ここ数年では、コロナ禍の為に中止とした年もありましたが、感染症対策をして、縮小した形で実施しています。内容としては、園内の地域交流ホールに集まり、食事をとったり、在園中の思い出の記録をスライドで振り返ったり、旧職員からお祝いの言葉をもらうなど、思い出話に花を咲かせて祝います。在園児童代表からプレゼントを贈り、卒園生から在園児童へ、先輩としてのエールの言葉をもらう等の交流もしています。ベトレヘム学園でのお祝いの後は、旧職員による支援団体「こもればいホーム」さんに移動して、そちらでもお祝いして頂いています。



会場の様子

お祝い会は、施設を単立って約二年が経過した時期で、その日が退所して初めての来園となる卒園生もいます。この二年の間にも、身長

が伸びていたり、お化粧が上手になったり、話し方、考え方が変化してたり、たくさん成長を感じることが出来ます。「タオルのはじっこをおしゃぶりしていたあの子が」、「人見知りで教室に入れなかったあの子が」、「くらげに刺されて泣いていたあの子が」、新成人として学園に帰ってきてくれるのです。大変な時期を乗り越えて、ずいぶんと大人になったなあと、その場は施設職員冥利に尽きる、温かな空間となります。



「NPO 法人きもの笑福(わふく)」のご支援で前撮り撮影

今年の「二十歳を祝う会」は、やはりコロナ禍にあり、式典ができるかどうか、主役の参加が可能かどうか、前日までハラハラしましたが、無事に予定通り三名の卒園生に出席してもらうことができました。今年の三名は、三名共に二才児からの入所で、高校卒業まで長い期間をベトレヘム学園で過ごしました。卒園した後、三人の幼馴染は助け合い、支えあう姿があります。これからの長い人生、つまづくことがあっても、縁を結んだたくさんの方々を支えられながら、自分らしく生きていって欲しいと願います。あなたたちの実家であるベトレヘム学園も、その一ツとして、ずっと見守っていますよ。(ベトレヘム学園 自立支援担当職員)

コロナとともに

シスター 國定光恵

フランス人宣教師として日本に生涯を捧げ尽くされた創立者故フロジャク神父様は、地域の人々との出会いを心から大切にされ、丁寧に関わって来られたと聞いています。その精神を受け継ぐ私たちが、今の時代にどのように実践していくかが「ベタニア宣教センター」(愛称・シオンの家)の課題だと日々感じています。

「人々の集いの場、地域に開かれた憩いの場、キリストの愛を伝える場」として、五年前にスタートしたわずか一年後、コロナによってその使命が大きく制限されてしまいました。が、昨年から従来の室内活動に加えて、シオンの家の恵まれた環境



青空ライブコンサート

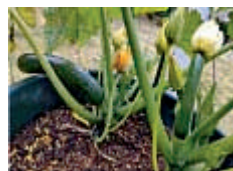


を生かし、かつ、密を避けた「戸外活動」を取り入れるきっかけを、神様が用意してくださったものご心から感謝しています。また、お庭造りと環境整備を引き受けてくださっているボランティアの方々(シオン・エンジェルズ)と、

ご近所にお住いの皆さまのご協力のもと、花壇の整備や野菜づくり、果実の実りの分かち合いなど、共に過ごす楽しく親しい交わりの輪が広がっています。



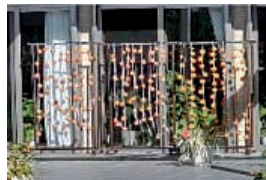
土壌改良



ズッキーニ



オリーブ



干し柿



「ノアの庭」のバラ

誰にも寛いだ居場所があり、どんな人も排除せず、等しく受け入れ、温かい家族的な「家」を建て続けることを使命として生きられた創立者に倣い、同じ創立者をもつ「ベタニアの家」の一員である私たちが、それぞれが置かれた場所でも今年もこの福音的精神を少しでも実践できますようにと祈りながら歩んで参りたいと思います。

(ベタニア宣教センター)



多機能型事業所「フルール」の  
開設にあたって

植竹 裕三

令和五年四月一日に多機能型事業所「フルール」が開設しました。那須地区には現在、障害者支援施設「マ・メゾン光星」、相談支援事業所「ノエル」および放課後等デイサービス「エスポワール」があり、今回の事業所は4つ目の事業所となります。地域のニーズにこたえるためにオープンしました。4年前に開設した放課後等デイサービス「エスポワール」の道を挟んで向かい側に土地を取得し、新築しました。去る三月六日には、澤野神父様によって祝福式を執り行っていただき、竣工した喜びに浸りました。また、この場所は「マ・メゾン光星」よりも那須町の中心に近く、また隣の那須塩原市にも近い場所で、より人が集まりやすい場所です。「マ・メゾン光星」の静かで雄大な環境に加えて、新しく地域の方々が集いやすい場所を持ち、そのような環境で働けることを幸せに思っています。

新しい事業所の名称は、「マ・メゾン光星」の職員に公募し、延べ50あまりの応募がありその中から決定しました。「フルール」とはフランス語で「花」の意です。「色とりどり、思い思いの花を咲かせてほしい。」「多くの個性を持った方が集まり、様々な個性という花を咲かせられる場所になってほしい。」「地域に親しまれ、花を見た時のような笑顔になれる場所になってほしい。」「この思いをこめました。これから「フルール」を利用される方々がこの思いを実感していただけるよう、いろいろなことを工夫しながら、サービス提供に繋げていきたいと思っています。さて、「多機能型事業所」と書いておられますが、この「フルール」では、生活介護事業と就労継続支援B型事業の2事業を行います。生活介護は主に日中の生活面での支援を必要とする利用者が日中過ごすための場所として、また、就労継続支援B型は、障害をお持ちで一般企業への就職に不安がある方が、就労訓練を行うサービスです。特に就労継続支援B型は、今まで「マ・メゾン光星」でもやっていなかったサービスです。



澤野神父様による祝福式

が、自治体や障害を持った方のご家族からの要望も多いサービスで、毎月工賃が支払われるのが特徴です。「マ・メゾン光星」で長年培ってきた支援や菓子作りの経験と技術を生かして「フルール」では焼き菓子を作り販売いたします。ご注文を受けての販売やミニカフェも併設しておりますので、お近くにお越しの際は お立ち寄りいただければ幸いです。



ミニカフェと奥の厨房

最後にになりましたが、昨年十二月十日、徳田教会で行われたベタニアの家チャリティコンサートにおいては、多くのご寄付を戴き、心より感謝申し上げます。これからの運営に活かさせていただきます。また、コンサート当日は、現「羊の丘工房」の焼き菓子とジャムを販売させて戴きました。その際にお客様から直接期待のお言葉を戴き、嬉しさと共に身の引き締まる思いです。これから地域に愛される多機能型事業所「フルール」にしていきたいと思っております。皆さまのご協力よろしくお願いたします。  
(多機能型事業所フルール 管理者)



フルール建物全景

チャリティのご報告  
昨年十二月十日開催のベタニアの家チャリティコンサートで頂戴しました支援金は、コンサートの経費を差し引き二十六万六千七百七円となりました。これを、トルコ南東部地震救援のための募金として「カリタスジャパン」と、本年4月に慈生会那須地区で開設する多機能型事業所「フルール」に寄付させて頂きました。皆様から多大なるご支援に感謝申し上げます。  
(ベタニアの家チャリティコンサート 実行委員会事務局)

未来の子どもたちからの預かりもの 種まきシリーズ 5 ベタニア修道女会



今回は、SDGs「持続可能な開発目標」の15番「陸の豊かさを守ろう」に触れてみます。

陸上に生息する動物、植物、森林は生物多様性の保護をはじめ、地球温暖化や災害の防止にも貢献し、快適な環境をつくるなど、あらゆる働きがあります。地球でくらす生態系を守ることはとても重要なことで、陸上の生態系や海洋資源は互いに命を育み、社会を支え、経済を發展させています。

一昨年、慈生会と協働して「ベトレームの森」を生態系保全や劣化した森林の回復のため整備し、人の憩いの場にもなりました。その近くでシスターが菜園を作りながら感じる小さな命の営みを紹介します。

愛しい菜園

昨年、スズメが一生涯懸命背伸びをして、紫蘇の実をついばもうと頑張る姿を応援しつつ、長さ五メートル程の畝二、三本の菜園は人だけでなく命ある皆に沢山の喜びを与えてくれます。夏は、ゴーヤやトマト、キュウリ等をカラスと共生しながら戴きますが、素人でも沢山の実りがあり、修道院だけでなく近所にも

喜ばれうれしく思います。

また三年ほど前、一本のキュウリの真ん中から立派な葉っぱが生えてきたものを戴き、神様から直接プレゼントされた思いで感動しました。「土」は命溢れる宝庫であることを、この小さな菜園から教えられました。

その年の気候により、虫や小さな動物の現れ方が違います。昨年はトカゲとカメ虫が多く見られました。時々子どもの頃に遊んだ銀トカゲもみられ、捕まえようと逃げる銀トカゲの尾を押えると尾っぽを残して逃げられたり…。スミレの葉裏に卵を産み付ける豹紋蝶の蛹は、薄茶色の体の下の方を純金色に装い、鳥たちから身を護るためとか。神様は分け隔てなく惜しまずに命をお守りくださるのがよく分かります。また、隣のヨゼフホームの広い芝生の庭は、時に捻り草で一面が淡いピンクにおおわれる年もあり、毎年の気候の変化によって彩を添え、自然の逞しさを感じます。

どんなに小さな命もお創りになられたものを極みまで愛してください。神様は、私達の救いのために、御一人子をお与えくださいました。何かによって深く息詰まり立ち上がれない時、「天地創造」旧約の一章に励まされます。

今、小さな畑は、野良坊の双葉が春の摘菜となるために、一月霜柱の立つ寒さの中ががんばっています。本当に主の慈しみに感謝です。\*

大地は主を知る知識で満たされる。イザヤ十一章九節 (記・Sr伊藤由紀子)

計 報 シスターマリアンナ 原 ワカ



一九二六年 〇月二七日 生  
一九五八年 〇月二七日 生  
二〇二三年 一月二七日 生  
立誓願 天  
帰天

シスターオデリア 木村 純子



一九三二年 〇月二日 生  
一九六三年 一月二七日 生  
二〇二三年 二月二七日 生  
立誓願 天  
帰天

ベタニア修道女会



編集後記

今年、五月には新型コロナウイルス感染症が二類相当から五類へ移行され、感染法上ではインフルエンザと同じ扱いになることと報じられています。高齢者施設(ベタニアホーム)としては悩ましい問題です。ご家族面会をどうしていくか、地域の感染状況や地域の施設の面会状況を見ながら決め

ていきたいと思えます。この瑠璃草が発行される頃には、中野通りや哲学堂公園の桜が満開になっていることでしょう。(中村 英男) 平成二十九年十二月にベトレーム学園・ナザレットの家が新築として完成してから現在、六年目を迎えています。まだ見学者や初めて来園していただく方からは、きれいな建物です、ね、と言われることがあります。先日、初めて外階段の掃除に高圧洗浄機を使用しました。驚くほど汚れは取れて完成した時と同じとまではいきませんが、きれいになりました。気持ちよく過ごしやすい環境を維持できるように心掛けていきたいです。

(関 広宣)

この四月一日、那須地区の新しい事業所『多機能型事業所フルール』が開設の日を迎えます。皆で様々な意見や知恵を出し合い、イメージが形になり、建物、設備、そして人が揃い、新しい事業が産まれました。携わってくださった皆様に感謝すると共に、皆で大切に育てていきたいと感じています。(杉山 智和) ミサ等で唱える回心の祈りの「兄弟」の文言が「兄弟姉妹」に変わり、しっくりしたと感じています。聖フランシスコの『太陽の賛歌』は、太陽・風・火を兄弟、水・月・星を姉妹、大地を母と呼び掛け、人間界と自然界の和解の歌、「復活賛歌だ」とある人が書いていました。四月九日は「主の復活」のお祝いです。全世界が主の栄光を浴びて新しくなりますように、被造物すべてが真の兄弟姉妹となり、被造物すべてが真の兄弟姉妹となりますように。争いの中にある私たちですが、いろいろな災難にあっている動植物と共にキリストの救いと復活につながりますように。アレルヤ! (Sr中野 利恵)